

東京証券取引所 提出資料



市場構造の在り方等に関する 検討の状況について

2018年12月17日

株式会社東京証券取引所

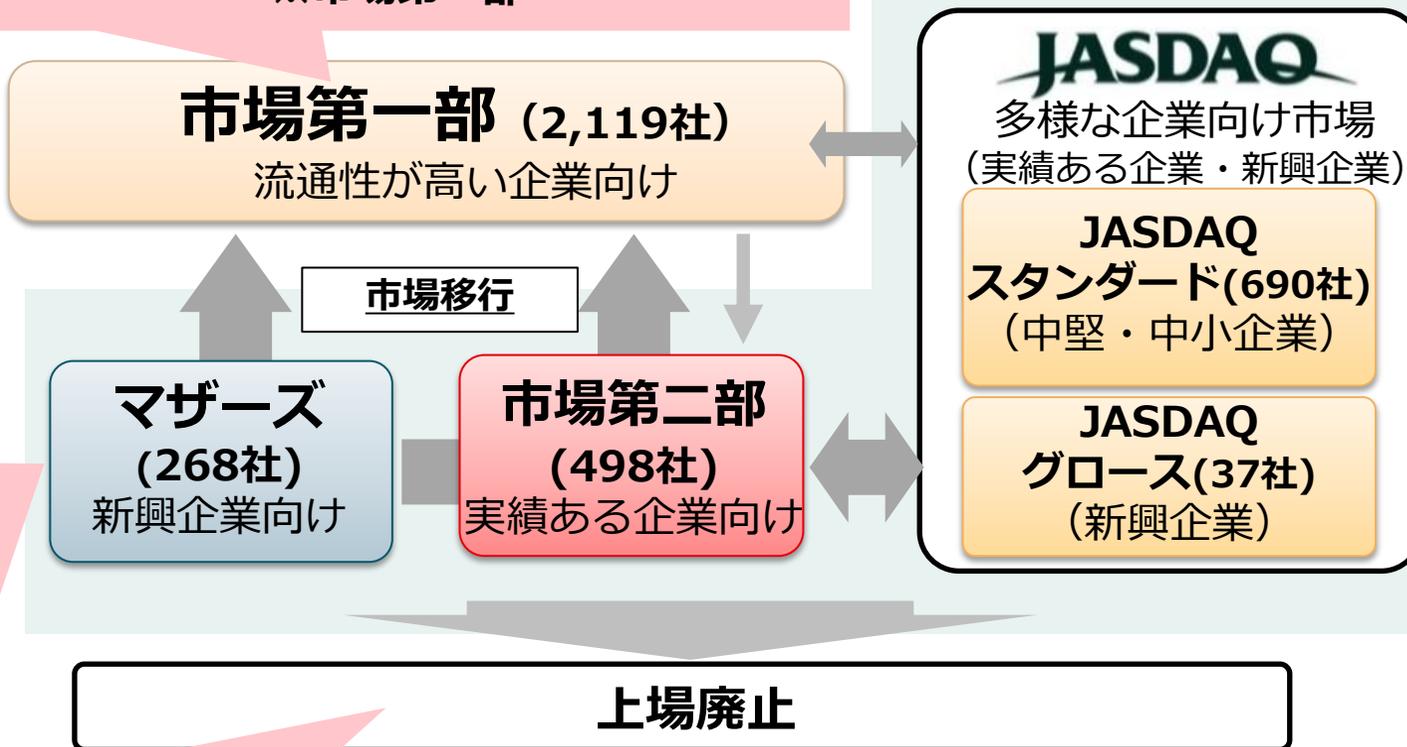
- 現在の一般投資家向け市場は、2013年の現物市場の統合までの東京・大阪の市場構造を基本的に維持

(2) ステップアップ先の市場の在り方

※市場第一部

(1) エントリー市場の在り方

※市場第二部・マザーズ・JASDAQ



(3) 市場移行・退出の在り方

注：各市場の上場会社数は、2018年11月末時点

- 統合から5年が経過し、市場構造を巡っては改善すべき点が顕在化
- 各市場の上場会社の特性や、階層化構造としている現状を踏まえ、(1)～(3)の3つの切り口で検討 (本年10月に設置した「市場構造の在り方等に関する懇談会」において検討を深化)

(参考) 各海外取引所の代表市場 (市場第一部との比較)

市場に階層あり

市場に階層なし

	東証	NASDAQ	ロンドン	ドイツ	Euronext	NYSE	香港	シンガポール
名称	市場第一部	Global Select	Premium	Prime	Regulated Market (Compartment A)	NYSE	Main Board	Main Board
コンセプト	—	世界で最も上場基準が厳しい市場	上場基準のより厳格な市場	国際投資家向け市場	(時価総額10億€以上)	大規模・中規模企業向け市場	実績のある企業向け市場	実績のある企業向け市場
社数	2,119	1,445	500	310	292	2,434	1,889	465
下位市場社数	498 (第二部)	814 (Global)	324 (Standard)	144 (General)	233 (Compartment B)	282 (AMEX)	391 (GEM)	212 (Catalist)
時価総額中央値	520億	1,260億	1,277億	846億	5,325億	2,054億	217億	117億
時価総額上位5%平均	1.3兆	2.3兆	2.8兆	3.6兆	9.7兆	5.7兆	0.87兆	0.44兆
時価総額下位5%平均	69億	80億	68億	34億	1,186億	117億	29億	7.7億
昇格	変更申請				自動変更	—	—	—
降格	指定替え	変更申請			自動変更	—	—	—
売買代金(2017年)	680兆	1,133兆	200兆	169兆	222兆	1,453兆	213兆	24兆

2018年11月時点

- 市場構造の在り方について、以下の2つの観点で検討を行う方向

◆ 投資家に対して企業の特性の違いを示すこと

- ✓ 当取引所は、これまで、店頭登録銘柄や新興企業に上場機会を提供するため、取引所市場の対象を拡大
- ✓ その際、投資家に企業のリスク特性の違いを示すため、新たな市場を創設
- ⇒ 現在の市場構造が、特性の異なる企業を区分して提供し、投資家が投資しやすい環境を整備する観点から発展してきた経緯を踏まえ、検討を行うべき

◆ 上場会社の企業価値向上に（側面的に）資すること

- ✓ 当取引所は、市場第一部をステップアップ先の市場として位置づけ
- ✓ 現に、多くの上場会社は新規上場後に市場第一部を目指す傾向
- ⇒ 市場の階層化が、これまで上場会社の企業価値向上や内部管理体制の維持を動機づける機能も発揮してきた経緯を踏まえ、そうした機能を維持向上することが望ましい

- 
- これらの観点から市場構造の在り方を改めて見直すことで、①国内外の多様な投資家が投資しやすい環境を整備し、②投資対象である上場会社自身の魅力向上を促進
 - ⇒ 資本市場の持続的発展、ひいては日本経済の発展に寄与していくことを目指す

(参考) 市場構造の在り方等に関する懇談会

座	長	神	田	秀	樹	学習院大学大学院法務研究科 教授
委	員	池	尾	和	人	立正大学経済学部 教授
〃		大	崎	貞	和	株式会社野村総合研究所未来創発センター フェロー
〃		翁		百	合	株式会社日本総合研究所 理事長
〃		黒	沼	悦	郎	早稲田大学法学学術院 教授
〃		武	井	一	浩	西村あさひ法律事務所 弁護士

計6名 (敬称略:五十音順)